



150th Anniversary

三重県誕生
150周年

過去から未来へ、三重の力

産業



150周年の歴史を詳しく見る

1882年
日本初の公認海水浴場、二見浦海水浴場が開設される

1893年
御木本幸吉が世界で初めて半円真珠の養殖に成功する

1899年
四日市港が開港する

1935年
松阪牛が東京芝浦の全国肉用畜産博覧会で名誉賞を受賞し、全国的な名声を得る

1959年
四日市市で石油化学コンビナートが本格稼働

1961年
伊勢えびに感謝し豊漁を願う「伊勢えび祭」が開催される

1967年
四日市公害裁判 提訴

1972年
四日市公害裁判 原告全面勝訴

1988年
世界で初めて伊勢えびの完全飼育に成功

1993年
伊勢自動車道が全線開通する



現在の四日市石油化学コンビナートの様子



昭和42年ごろの
四日市石油化学コンビナートの様子



大気汚染につながった煙
(写真提供: 三重テレビ放送株式会社)



今では美しい夜景が有名に

三重のチカラ、産業の歩み The Strength of Mie, The Journey of Industry

三重県の産業は、先人たちのたゆまぬ努力と挑戦によって築き上げられてきました。その歴史は、1959年（昭和34年）の四日市市での石油化学コンビナート本格稼働に代表されるように、日本の高度経済成長を支え、現代へと発展を続けています。

現在では電子デバイス分野で製造品出荷額が全国1位を誇り、半導体関連産業が集積しています。

また、自動車メーカーの工場をはじめ、関連部品の製造業など裾野の広い自動車関連産業が県内各地に集積しています。

三重県の強みは、こうした先進的な産業だけではありません。

地域の風土と歴史の中で生まれ、人々の日常生活と密着して営まれている伝統産業は、三重県の魅力を語るうえで重要な要素の一つです。

国指定伝統的工芸品に指定された「伊賀くみひも」「四日市萬古焼」をはじめとした、数々の伝統工芸品があります。

1893年（明治26年）には御木本幸吉が世界で初めて半円真珠の養殖に成功したように、豊かな自然に育まれた一次産業も大きな魅力です。

また、1882年（明治15年）に開設した日本初の公認海水浴場である二見浦海水浴場は、観光業の発展に寄与しました。

松阪牛、伊勢えび、真珠といった質の高い産品は、地域の暮らしを支え、三重の多様性を象徴しています。

しかし、その歩みは平坦ではありませんでした。四日市公害の過ちを繰り返さぬよう公害防止対策に積極的に取り組むなど、より良い産業のあり方を模索してきました。三重県の産業は環境との共生を図りながら、次の50年へ向けた持続的な発展を続けています。



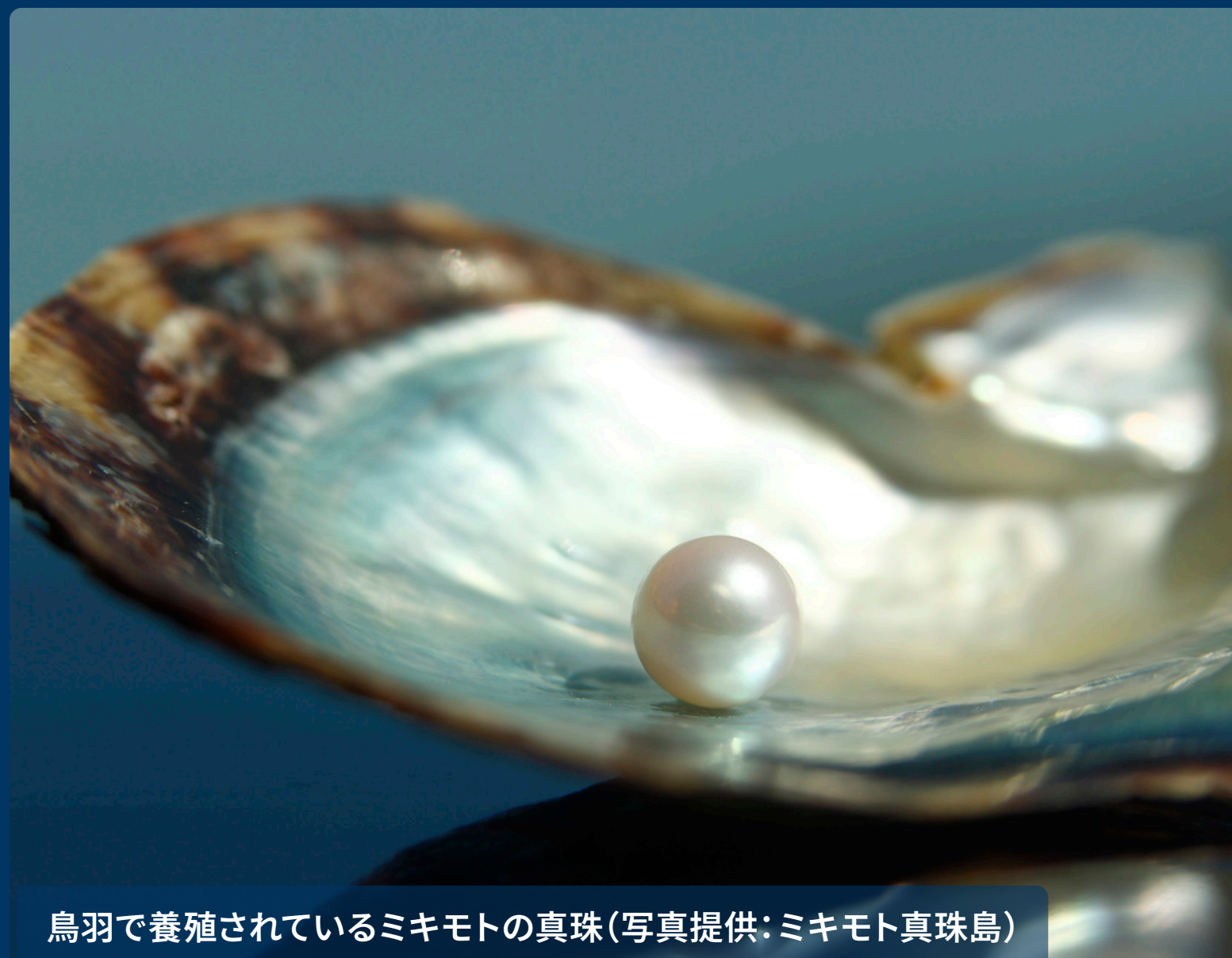
半導体製造のクリーンルーム(写真提供: キオクシア株式会社)



自動車部品として欠かせないワイヤーハーネス(写真提供: 住友電装株式会社)



自動車製造の様子(写真提供: 本田技研工業株式会社 鈴鹿製作所)



鳥羽で養殖されているミキモトの真珠(写真提供: ミキモト真珠島)

豊かな自然が育む三重の恵み Mie's Bounty

三重県の豊かな自然が育む一次産業は、地域の誇りであるとともに、人々の暮らしや文化を支えてきた大切な存在です。

松阪牛や伊勢えび、伊勢茶など、高い品質を誇る産品は、三重の多様な風土と自然の恵みを色濃く映し出しています。これらは単なる食や産品にとどまらず、地域の歴史や伝統と深く結びつき、三重ならではの生活文化を形づくる象徴でもあります。

現在もなお、自然と人の営みが織りなす一次産業は、次世代へと引き継がれ、未来に向けた地域の力となっています。



開場当時の二見浦海水浴場(写真提供: 資日館)



全国的に知名度の高い松阪牛(写真提供: 三重県観光連盟)



伊賀くみひもは、絹糸や金銀糸などを使い、伝統的な組台で織細に組み上げられた三重県伊賀市の伝統工芸品



三重県で生産されるお茶、伊勢茶



世界初の伊勢えびの完全飼育に成功